



会場風景

21日の午後には、本学術総会会長の中房より会長講演「地域医療のマネジメント ～コロナ禍の経験から～」についてお話しさせていただきました。福岡赤十字病院におけるコロナ対応の実践を示し、「パンデミック時の当院の役割は、感染症指定医療機関であると同時に地域医療支援病院でもある。コロナ診療で社会的な役割を果たすことと並行して、地域医療支援病院として一般診療を継続して地域に貢献することも求められた」とお話しさせていただきました。また、コロナ禍での対応の経験や院内体制・連携体制の構築は、地域における個々の医療機関の役割を明確化することによって、地域医療構想への対応ならびに地域包括ケアシステム構築につながると述べました。

招待講演1では、大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授の大竹文雄先生にご登壇いただき、「医療現場の行動経済学」をテーマにお話しいただきました。医療現場と患者のすれ違いが起こることについて、論理的には同じことであっても表現の仕方で異なる受け止め方をすることがあることをご講演いただきました。医療現場における具体的な例をもとに、私たちの多くにあるバイアスに基づく行動を、よりよい方向で活用する手法等について説明していただきました。

招待講演2では、太宰府天満宮最高顧問の西高辻 信良先生に「天神の杜に生きて」と題し、ご講演をいただきました。西高辻 信良先生は、菅原道真公から数えて39代目の子孫にあたるということです。「変わらないために変わり続ける」ことを常に心に抱き、太宰府天満宮が取り組んできた様々な試みや、未来へ向けて現在挑戦していることなど事例を交えて紹介していただきました。

招待講演3では、東京大学大学院工学系研究科教授の西成活裕先生に「医療マネジメントと渋滞学」をテーマにご講演いただきました。あらゆる渋滞を科学的に研究するのが、西成先生が提唱する「渋滞学」であり、渋滞を避けるバッファとしての「ゆとり」が大切であるとお話しいただきました。東京オリンピックでの群衆事故防止のアドバイザー経験や、リスクを予測しながら全体最適のマ

ネジメントをしていく難しさについて事例を交えて紹介していただきました。

特別講演1では、国立研究開発法人産業技術総合研究所フェローの持丸正明先生に「人間拡張技術による医療DX」についてご講演いただきました。人間拡張技術の医療適用分野として、健康支援サービスとリハビリテーション、介護支援サービスの取り組みについてご紹介していただき、デジタル技術の導入とプロセス改変(DX)がもたらす効能について展望をご講演いただきました。

特別講演2では、厚生労働省大臣官房医薬産業振興・医療情報審議官の内山博之先生に「医療DXの取組」についてご講演いただきました。近年、国内外の医療機関を標的としたサイバーセキュリティインシデントが増加している現状を踏まえ、医療DXにおける厚生労働省の取り組みを紹介するとともに、医療機関におけるサイバーセキュリティ対策についてお話しいただきました。

特別講演3では、公益財団法人結核予防会理事長の尾身 茂先生に「新型コロナ これまで、これから」についてご講演いただきました。新型コロナウイルス感染症について、日本でのクラスター対策や検査体制、緊急事態宣言等の様々な感染対策措置を振り返りながら、これからの感染症との向き合い方についてお話しいただきました。

教育講演1では、東邦大学医学部社会医学講座教授の長谷川 友紀先生に「論文の書き方について—学会雑誌投稿を目指して—」についてご講演いただきました。これまで医学論文の書き方について系統的に学んだことのない方を想定して、医療マネジメントに係る論文作成の基本的な事項を簡潔に説明していただきました。学会雑誌の投稿を検討している方にとって大変参考になったことと思います。

教育講演2では、九州大学病院教授の後 信先生に「医療安全の国際潮流について」をご講演していただきました。後先生は、2017年から2024年に各国の認定組織を国際認定する組織であるISQuaの役員としてISQuaの運営全般に従事され、日本医療評価機構(JQ)においては医療事故情報収集事業や産科医療補償制度などの創設と運



会場風景